

～ 江刺の大地に適した農産物「米・牛・りんご・やさい」～



#### 平安時代の木製農具

江刺区愛宕の落合Ⅱ遺跡出土の木製農具は「鋤」「横植」「転がし」と呼ばれる代掻き用具や「堅杵」があります。当時の牛馬耕の存在を想定できる資料として貴重なもので、全国的にも珍しい出土例といえます。



#### 江刺金札米

恵まれた自然条件と、先人たちの築きあげた優れた技術によって育てられた江刺金札米は、現在でも全国食味ランキングにおいて常に上位に位置しており、毎年「特A」米として高い評価を受けています。



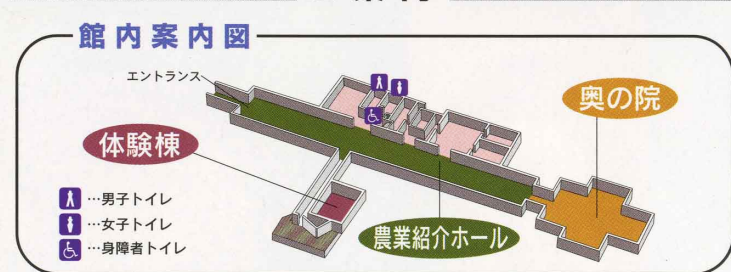
#### 江刺型農業

現在江刺では「米」「牛」「りんご」「野菜」の4本柱に力を入れています。  
「陸中牛」は昭和37年、旧江刺市の子牛市場開設に伴い、生産者の資質改良のために兵庫県から「和人号」を導入、その後「恒徳号」などの名牛を導入しながら継続的に改良生産を行い「陸中牛」と呼称するまでにになりました。江刺区内で生産された子牛を「陸中牛」、牛肉は高級牛肉「江刺牛」として首都圏を中心に高い評価を得ています。  
「江刺りんご」は昭和48年から始まった「わい化栽培」により栽培面積拡大を続け、現在14の生産団地を有しています。栽培に適した江刺の気候と研鑽された生産者の技術により、「江刺りんご」は全国コンクールで常に上位にランクされています。



えさし農業絵巻 ▲ 縄文時代の石皿 ▲ えさしふるさと絵巻タッチパネル ▶

## ご案内



■ 開館日 / 年中無休 (特別展・企画展準備の為閉館する場合がありますので、予めご確認下さい。)  
※ 館内は終日禁煙とさせていただきます。  
※ ペットの持ち込みは禁止させていただきます。  
■ 開館時間 / 9:00～17:00 (11月1日～2月末日までは16:00閉館)

### えさし郷土文化館入館料金

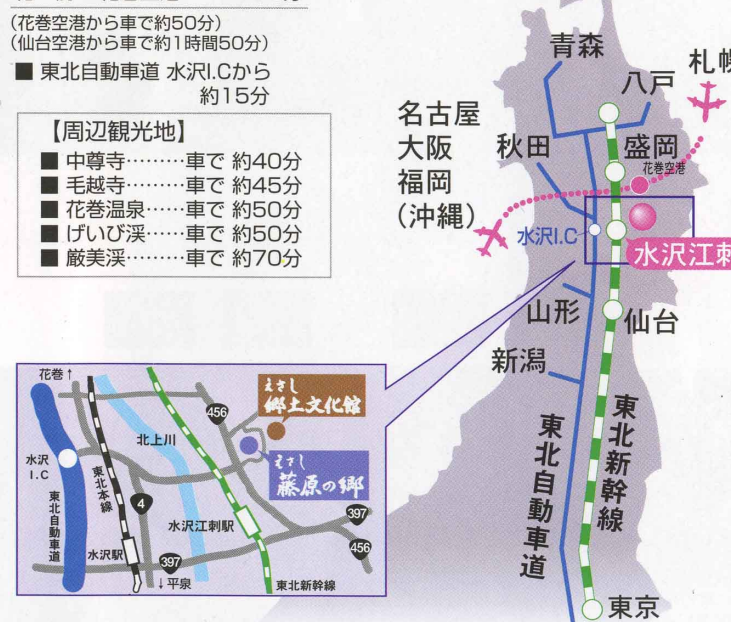
■ 個人入館料金 ● 大人300円 ● 高校生200円 ● 小・中学生150円  
■ 団体入館料金 ● 大人250円 ● 高校生150円 ● 小・中学生100円 (15名以上)

### えさし藤原の郷・えさし郷土文化館共通入場料金

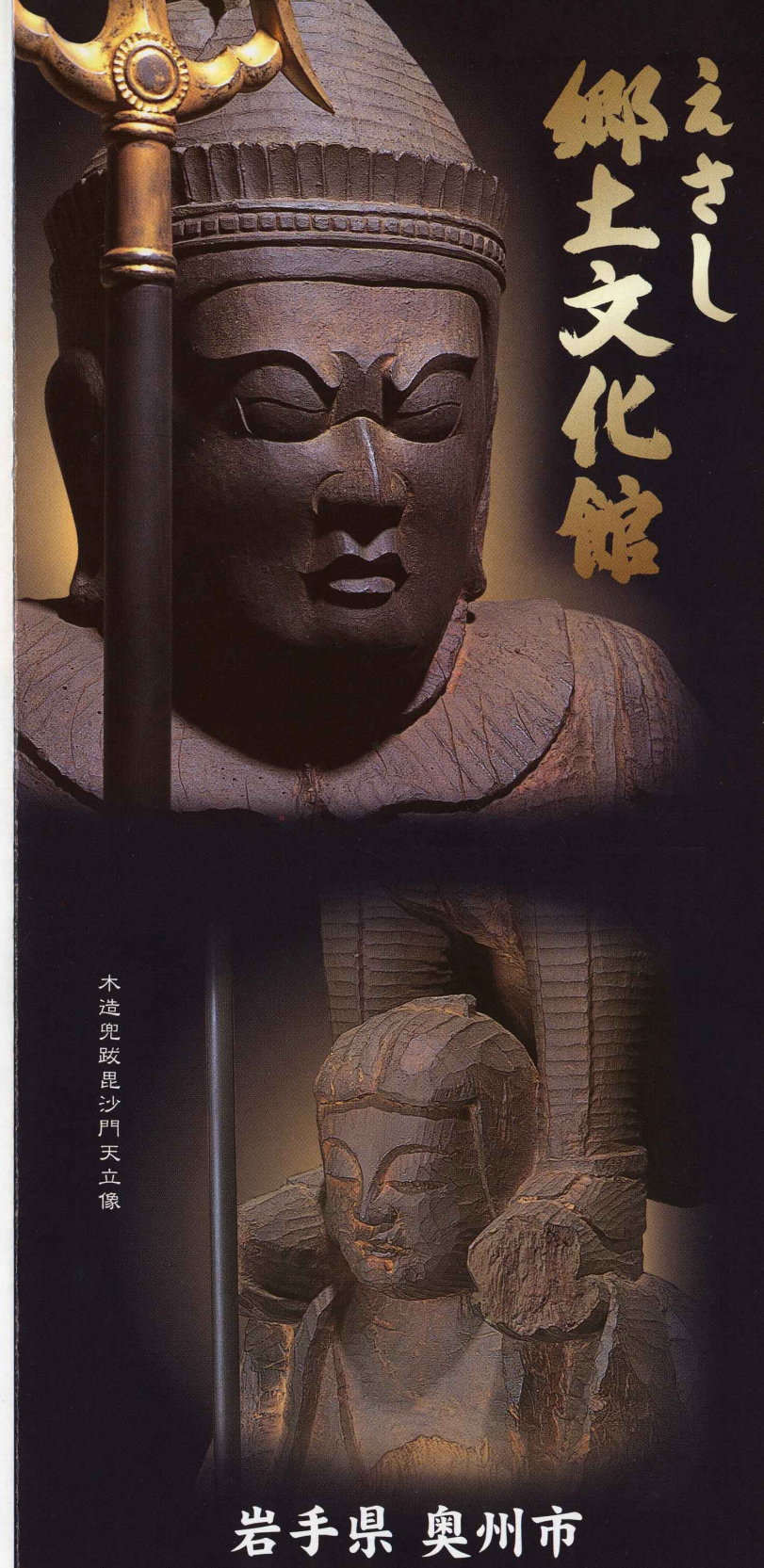
■ 個人入場料金 ● 大人900円 ● 高校生550円 ● 小・中学生350円  
■ 団体入場料金 ● 大人700円 ● 高校生450円 ● 小・中学生250円 (15名以上)

### 交通アクセス

■ 航空機  
沖 縄 ⇨ 花巻空港 2時間45分  
福 岡 ⇨ 花巻空港 1時間55分  
大 阪 ⇨ 花巻空港 1時間20分  
名古屋 ⇨ 花巻空港 1時間10分  
札 幌 ⇨ 花巻空港 55分  
(花巻空港から車で約50分)  
(仙台空港から車で約1時間50分)  
■ 東北自動車道 水沢I.Cから 約15分



えさし郷土文化館  
お問い合わせ  
〒023-1101 岩手県奥州市江刺区岩谷堂字小名丸102-1  
TEL.0197-31-1600 URL <http://www.esashi-iwate.jp/bunka>  
FAX.0197-31-1601 E-mail [denchoku@pon.waiwai-net.ne.jp](mailto:denchoku@pon.waiwai-net.ne.jp)



木造兜跋毘沙門天立像

岩手県 奥州市

## 太古の昔から脈々と続いている江刺の稲作

### 農業紹介ホール



#### 反町遺跡・ジオラマ

江刺区岩谷堂の反町遺跡で発見された弥生時代の水田跡がジオラマで再現されており、水と肥沃な土地に恵まれた江刺地方で、古くから米づくりが営まれていた様子を紹介しています。反町遺跡の水田跡は面積が92㎡程の小さなものですが、用水路や溜池、水口を備えるなど、当時から水田造成や稲作栽培には高度な技術が用いられていたと考えられています。また、周辺の小高い平地には竪穴住居があり、稲作に携わった当時の人々の暮らしの様子も知ることができます。その他、水沢区の常盤広町遺跡で発見された水田跡や、胆沢区の清水下遺跡から出土した石包丁、江刺区の兎Ⅱ遺跡出土の粉痕付着土器など、弥生時代の米づくりに関する資料は多く、これらは現在の奥州市域が当時から穀倉地帯であったことを物語っています。



#### 新川Ⅲ遺跡

古墳・奈良時代になると、この地方では集落の数が飛躍的に増大し、人々の活動も活発になります。  
当時、現在の奥州市をはじめ東北地方に居住していた人々は蝦夷と呼ばれていましたが、彼らは西日本や北方地域との交流を深めながらも、独自の文化や習慣を守りながら生活していました。  
江刺区愛宕の新川Ⅲ遺跡で発見された畑跡は、古墳～平安時代の時期のもので、江刺地方の蝦夷たちは各地に生産基盤を持ち、農業を営みながら豊かに暮らしていたものと思われます。  
新川Ⅲ遺跡の畑跡の土壌分析の結果、稲の珪酸体(プラントオパール)が多量に検出されており、ここでは陸稲栽培が営まれていたものと考えられています。

### 体験棟



人と人との触れ合いを通じて、先人の知恵と技の素晴らしさを学ぶ、体験学習を開催しております。

体験学習についての詳細はお問い合わせ下さい。